

るんびに

第八十号

楊林山 正 光 寺

波多正文

尼崎市東大物町1-3-7
(06) 6481-3253

お誕生日をありがとう

小林 顕英

四月八日は、お釈迦様のお誕生日で「花まつり」と呼ばれています。これはお釈迦様が、ルンビニという花園でお生まれになったところから「花まつり」というふうに呼ばれております。花まつり、お誕生日と言いますと、私には忘れられないことがあります。

もう四十年ぐらい前のことなんですけれども、やっと社会的に弱い立場にある人たちに光が向けられ始めた頃、コロニーと呼ばれる障害を持っておられる人たちの施設が、やっと建設され始めたころの話なんです。その新しくできた施設へ、私の所属するサークルが見学会と学習会というのを企画をしまして、私と友人と一緒に参加をしました。

施設長さんが一通り案内をしてくださった後で、「外から見ているだけじゃ本当の勉強にならないから、本当に学びたかったら、たとえ半日でも子ども達と一緒に過ごさなさい」と言われたので、「じゃあ、いいんですか」ということで、私も友人と一緒に、子ども達の学んでいる教室へ入らせてもらったんです。子ども達とすごしていると、一日があつという間に過ぎてしまい、もうボチボチ帰らなきゃならないかなといった頃に、担当しておられた先生が、部屋の中を「みんな、こっちへ寄って」と全員を集められたのです。みんなが集まって来た時に「今日は、実はみよちゃんの誕生日なんだ。だから今からみんなでお誕生会をしよう。みんなのみよちゃんにお誕生日おめでとうしよう」とおっしゃったんで

す。それで「あれっ」と思ったんです。普通「お誕生日おめでとうと言おう」と言うでしょ。「おめでとうしよう」で、なんなんやろうと思っていいたら、子ども達を見ていて、はつと気がついたんです。それぞれ子ども達の持っているハンディーが違うんです。本当に十メートル移動するのに何分もかかる子もいる。その子が「押そうか」と言う私たちの手を振りきって、自分で車椅子を操作しながら、みよちゃんのところへ行つて、本当に「にこっ」と笑いながら、彼女の手を握っているのです。中には十分発音できない言葉だけど一生懸命「おめでとう」と言っている子もいるんです。文字盤を使って「おめでとう」と言う子もいる。頭をなでていく子、頬ずりしていく子、みんなそれぞれが、それぞれの思いで、おめでとうを一生懸命表している。そんな子ども達を見ていくうちにふつと気がついたら、自分たちも何かしなきゃならん。「あれーどうしよう」と思っている時に先生が、子ども達が一通り終わった時に、「じゃあ」と私達に振ってきたそのときに、私の友人が、みよちゃんをお姫様だっこをして、最初は教室の中をゆっくり歩いたんです。一周回った時に、誰が見てもみよちゃんが喜んでるのがすごくよくわかった。そしたら「じゃあ、サービスだ」と言って、今度はちよつと速い目に歩いたんです。むしろ走ったかな。そうすると動ける子どもが、みよちゃんを抱いている彼の後ろについて歩き出したんです。ゾロゾロいつの間にか、みんながみよちゃんを先頭にして、一つの輪になって何回も回った時、本当に彼女が嬉しそうな顔をして喜んでいました。その後で、先生が「みよちゃん、よかったね。みんなにおめでとうしてもらったよね。これみんなからのプレゼント」と言って、赤いリボンのついた包みを渡したんです。「みよちゃん、開けてみようね」と言って、みよちゃんは脳性まひという病気で、右手の人差し指しか自由に動かないんです。だから先生が、リボンを取り包みを開けて「みよちゃん、これ」と出されたのが、赤いかわいい靴だったんです。私は、「あれ、車椅子の彼女に靴を」と思った時、先生が言われたんです。「みよちゃん、早くこの靴

履いて歩けるようになったらいいね。みんながそう願っているからね」と言って渡されたんです。そして、その後で「みよちゃん、みんなにおめでとういって何て言う日」と尋ねられたんです。「お誕生日って何て言う日、一体どういうことやる」と思っています。自分の思いを文字で指差したんです。それを先生が、拾って黒板に書いていかれたんです。そして出来上がった言葉が「おたんじょうびを、ありがとう」という言葉だったんです。私たちは、お誕生日っていうと「おめでとう」と言われて「ありがとう」とは言うけれども、本当に「お誕生日、ありがとう」ってどれほど思っているだろうか。お誕生日を祝っていただけるということは、私を生んで下さった方があり、今日まで育てて下さったたくさんの方々のおかげで、この日を迎えることが出来た。そのことを、気づかせていただくということが出来た。そのことだろうか。私はその日の帰り、気づかしてもらったことがあったのが、「優しい」と言う言葉だったんです。あの「優しい」「優」という字ね。あれ人偏を取る「憂い」でしょう。優しいというのは、目の前にいる人の痛みや悲しみを同じくできるということなんだ。だから本当に、この日、みよちゃんを通して、体にハンディーを持っておられる人たちの、その痛みや悲しみの一端を少しでも学ばせていただき、そして自分が、今日一日ここに生かされておるといふことの意味を考えさせてもらおう。それが誕生日といふことの本当の意味じゃなかったのかということをお教えてもらいました。

大阪府・法栄寺前住職 本願寺派布教使

◆花まつり法要

四月五日(土) 午後二時～四時

ご講師 藤田 徹文 師

◆宗祖降誕会

五月十日(土) 午後二時～四時

ご講師 阿部 信幾 師

◆歎異抄を学ぶ会

毎月第三土曜日 午後二時～三時三十分